



—学—校—ひ—と—地—域—



大宮区 幼児教育センター付属幼稚園 教頭 **新 井 晴 雄**

本園は、大宮駅東側の商業地区、駅東口から5分ほどのところに位置している。園舎はさいたま市立大宮小学校の敷地内にあり、幼児教育センター及び付属幼稚園からなっている。通園区域はさいたま市全域で、岩槻区・南区を除く市内8区から通園し、保護者が送り迎えをしている。

1 伝統となった“名人と遊ぼう”

「めいじんがいっぱいいるよ」

「きょうは、なにしてあそぼうかな」

職員室で高齢者の方々を迎えて話をしていると、園児たちのこんな話し声が聞こえてくる。今日は年間3回ある「名人と遊ぼう」の日である。園児たちは高齢者と一緒に遊ぶことを楽しみにしている。

現代は、少子高齢化・核家族化社会が進み、幼児と高齢者が同居している家庭は少ない。そこで、本園では幼児にやさしさや思いやりの心を育てるという目的で、十数年前から高齢者との交流に取り組んでいる。

2 交流活動の実際

本園の交流活動に協力していただいているのは、大宮区老人クラブ連合会・中部地区連絡協議会の皆さんである。年度当初に年間の実施計画を作成し、老人クラブの役員さんと事前に打合せをしながら進めている。今年度の実施計画は次の表のとおりである。

平成18年度「名人と遊ぼう」実施計画		
回	期日	内 容
1	6・23	ダーツ、竹とんぼ、ストロー・ロケット、ポーリング、おりがみ
2	9・12	豆つかみ、やじろべえ、おりがみ、めんこ、フリスビー
3	1・25	福笑い、かるた、ふうせんロケット、ポーリング、すべり台遊び



今年の折り紙では「動くおりがみ」を教えてもらった。名人の巧みな折り紙の技に、園児たちから「すごいね。よくうごくね」と驚きの声が聞こえてきた。

園児たちを喜ばせるために、高齢者の方々が毎回創意工夫をして交流会に臨んでいただいている。園児たちも名人に会うのを楽しみにしているのである。

3 交流を通して学ぶもの

園児たちにとって高齢者との交流は、人間的な温かさ（やさしさや思いやりの心）をはぐくむのに最適である。また、高齢者からも「名人、名人と呼ばれると、元気をいただきます。若返るようです」と感謝の言葉を耳にする。

人と人とのつながりと地域の大切さを痛感するひと時である。 （あらい はるお）